

性虐待被害児の診察技術学ぶ

山田不二子さん招きセミナー

3月20日大府市のあいち小児保健医療総合センターで「性虐待被害児の診察トレーニング2012」(CAPNA・子ども虐待防止センター主催、愛知県医師会、愛知県産婦人科医会後援)を行いました。講師は、認定NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク理事長の山田不二子医師です。

午前中は、関係職種の弁護士、家裁調査官、病院ソーシャルワーカー、看護師、児童福祉司、児童心理の方たちも講義に参加し性虐待概論を学びました。

午後からは、医療現場の医師を対象に、性虐待を受けた子どもにできるだけ不安の少ない身体診察や問診ができるよう具体的な診察技術の向上を図る性虐待児診察の実技も学びました。

8時間に及ぶ充実した講義に、70名を超える参加者たちからは「なかなかこのような研修はなく、参加できてよかった。」「大変分かりやすくまたとても勉強になった。」という声が多く聞かれました。

※この研修は日本アムウェイ合同会社「One By One子ども基金」の援助を受けています。

定時総会のお知らせ

5月26日(日)午前10時半より、第18回定時総会を行います。会場は、名古屋市東区東桜1丁目、愛知芸文センター12階にある愛知県文化情報センターの催事室E・Fです。

役員改選の年でもあり、会員の皆様はぜひふるって、ご参加ください。

ご寄付 皆様からご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

【個人】 (2013. 1. 1~2013. 3. 31分、順不同・敬称略)

山田光治、矢満田篤二、萬屋育子、伊藤直樹、吉岡(広橋)智子、横井幸子、嶋康子、柳瀬順子、木村剛、小川麻子、植多有里子、鈴木加代子、丹羽咲江、飯沼敏子、服部恵子、隈本真理子、吉田衣里、後藤宗理、黒岩みのり、五十嵐ベティ、水野タズ子、吉田由美、近藤千代子、日比野元子、谷口紀美江、長谷川侑希、一柳三知代、兼田智彦、岸田広美、石田金司、小久保裕美、高木佳子、青木秀子、今西洋子、石田まり子、谷川輝美、豊田有紀、中野公子、早川真理、隈本秀樹、競朗子

【団体】

井ノ塾(井ノ口幹博)、日本アムウェイ、中部被服研究会、ナゴヤゾンタクラブ、在日米国商工会議所、名古屋名城ローターアクト

CAPNA ニュースレター 73号

2013年4月15日発行

発行 認定NPO法人 CAPNA
事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-4-404 TEL.052-232-2880 FAX.052-232-2882
印刷 社会福祉法人名古屋ライトハウス光和寮

CAPNA

キャプナニュースレター 73号

来年9月、子ども虐待防止世界会議 名古屋2014が、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開かれます。

CAPANAは、JaSPCAN(日本子ども虐待防止学会)と協力しつつ、受け入れのためにさまざまな準備を進めているところです。

5月の定時総会では、世界会議に向けた体制づくりのために、動ける役員メンバーを増やしていくことを考えております。ご支援をよろしくお願いいたします。

Vol. 73

養護施設に「安全委員会」

岡崎平和学園が県内初の導入

児童養護施設・岡崎学園は半年以上の準備期間を経て「安全委員会方式」を導入し、1月30日、全職員、入所児童全員、安全委員会委員が参加して立ち上げ集会を開きました。

「安全委員会方式」とは児童養護施設の暴力をなくし、子どもたちが安心・安全な生活を送ることができるようにということで九州大学の田嶋誠一教授が考案、実践している仕組みのことです。

様々な事情で親と一緒に生活できない子どもたちは全国に4万人近くいます。里親など家庭的養護はわずか1割程度で、ほとんどは50人、70人の集団である施設で生活しています。児童養護施設は2歳から18歳過ぎまでの子どもたちが生活する場です。いろいろな問題がありますが深刻なのは暴力問題です。

職員から子どもへの暴力は「施設内虐待」として児童相談所に通報しなければなりません。職員が子ども同士の暴力を見て見ぬふりしている場合は「ネグレクト」に該当します。多くの施設で子ども同士の大小の暴力問題が起きていますが、深刻な状況になると加害児童を施設変更して（施設から出すということですが）秩序を維持するのが精いっぱい状態です。しばらくするとまた暴力問題が起きることが多く根本的解決には至っていません。

田嶋さんは心理職として施設に関わる中で「児童養護施設では深刻な暴力があるということ、すなわち子どもたちが成長の基盤としての安心・安全な生活を送れてないこと」に気が付き、暴力問題解決へ取り組みを始めました。「暴力を非暴力で抑える」仕組みとして「安全委員会方式」を考案したのです。

著書の中で「安全委員会方式」について「簡単に言えば、外部に委嘱された委員と職員から選ばれた委員とで『安全委員会』というものをつくり、そこで施設内での暴力事件についての対応を行う方式」と述べています。聞く限りではそんなに大変そうではありませんが、施設職員、しかも全職員が本気で「暴力をなくしたい、子どもたちに安心安全の場を保障したい」と決断しないと導入は難しいのです。わたくしはとてもいい仕組みだと思うのですが、昨年11月に開催された「第14回児童福祉施設安全委員会全国大会」の時点で導入施設は14施設です。北海道から九州まで点在しています。

平和学園が導入したきっかけは、実は平成23年7月、CAPNAが県からの委託を受けた児童福祉施設職員対象の研修です。田嶋さんは全国の施設で起きている様々な暴力問題の実態を把握していました。「安全委員会方式」を導入した施設の変化もつぶさに語りました。導入した施設では大きな暴力事件がなくなり子どもたちが明るくなっているとのことでした。「子どもたちの安心安全を保障し、子どもたちの成長のエネルギーを引き出すことこそ施設職員の役



目」と言います。参加した施設職員、児童相談所職員が共感できる内容でした。

平和学園の職員は「今大きな暴力問題は起きていないが、起きる可能性はある、起きる前に安全委員会方式を導入したい」と思ったそうです。平成24年3月再び、民間の心理相談室の研修会で田嶋さんが講師として招かれました。この時に参加した児童相談所職員、施設職員の中でとにかく県内の施設に導入したいという意識が芽生えました。参加した平和学園の職員は他の職員に働きかけ、管轄する児童相談所も応援体制を作り、「立ち上げ集会」までこぎつけたのです。「立ち上げ集会」では子ども代表、職員代表が「暴力を振るわない、言葉でいう、優しくいう」と決意表明をしました。大人も子どもも全員が「暴力を振るわない」と誓い合う場面は感動的でした。

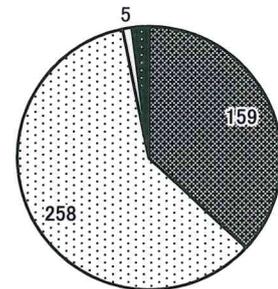
ちなみに私はこの安全委員会の委員長を仰せつかっています。委員会導入後、子どもたちの暴力的な言動が減ったそうです。日常生活では小さいいざこざが起きていますが、大きな出来事にならずに済んでいるとのこと。また職員も子どもの対応を一人で抱え込むことがなくなり、特に若い職員は気持ち楽になったと感じているようです。

平和学園では「CAPワークショップ」も行われています。いろいろ訳あって親と生活できない子どもたちにとって「施設は安心安全で心から安らげる場」であってほしいと願っています。また家庭に帰る見込みのない子どもたちには特定の大人との関係を早く作ってほしいと思います。「安全委員会方式」は人員増、特別予算が不要ですが、かかわる職員の決断なしには導入が進まず、なかなか広がらないという点で「特別養子縁組前提の新生児里親委託」と類似点があると思います。「安全委員会方式」について詳しく知りたい方は田嶋さんの著書「現実に関わりつつ心に関わる」「児童福祉施設における暴力問題の理解と対応」いずれも金剛出版をお読みください。(CAPNA理事 萬屋育子)

2012年度会員数(2013年3月31日現在)

	正会員	賛助会員	団体会員	企業賛助会員	合計
新規会員	6	13	0	0	19
継続会員	125	201	4	8	338
会費未納	28	44	1	1	74
合計	159	258	5	9	431

会員種別割合

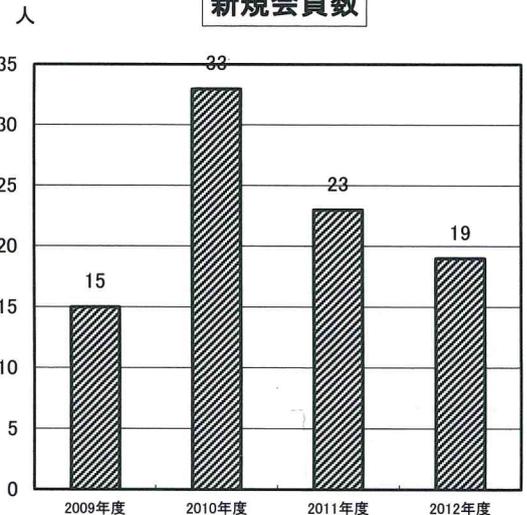


会員種別会員数の変化

年度		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
新規会員	正会員	6	7	6	6
	賛助会員	8	26	17	13
	団体会員	1	0	0	0
	企業賛助会員	0	0	0	0
	計	15	33	23	19
継続会員	正会員	126	146	135	125
	賛助会員	200	216	205	201
	団体会員	5	7	4	4
	企業賛助会員	9	7	9	8
	計	340	376	353	338
会費未納	正会員	37	12	28	28
	賛助会員	85	48	56	44
	団体会員	3	2	3	1
	企業賛助会員	5	6	1	1
	計	130	68	88	74
正会員		169	165	169	159
賛助会員		293	290	278	258
団体会員		9	9	7	5
企業賛助会員		14	13	10	9
会員総合計		485	477	464	431

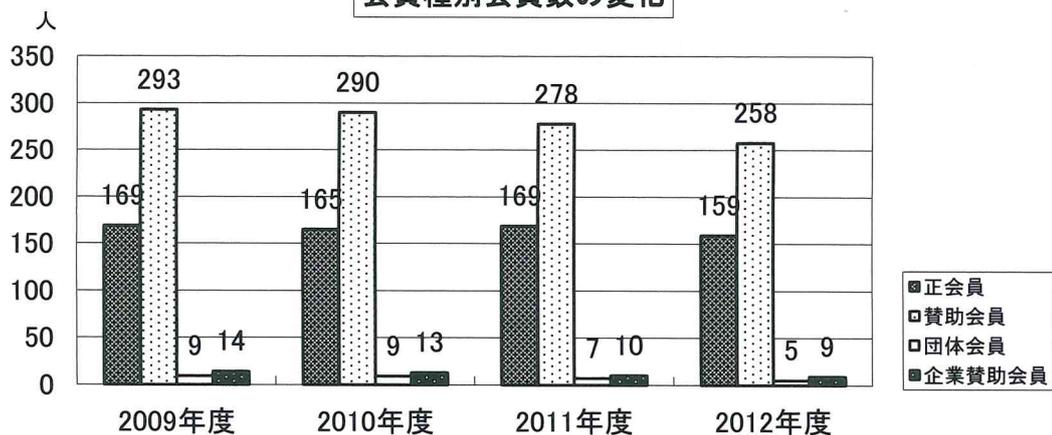
■正会員 □賛助会員 □団体会員 ■企業賛助会員

新規会員数



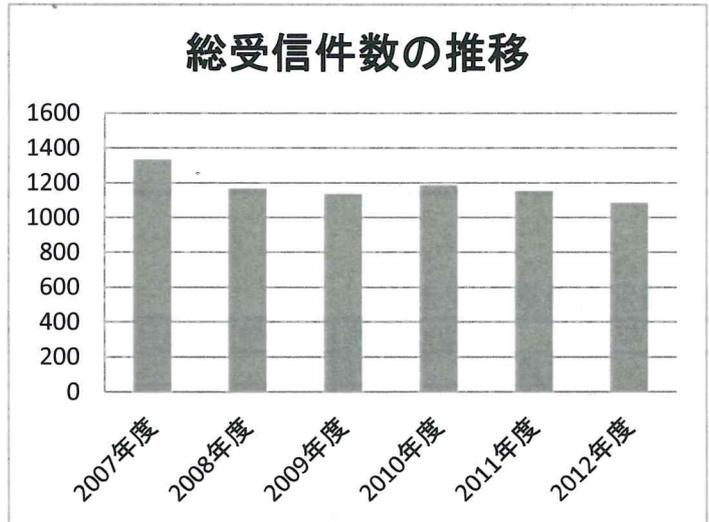
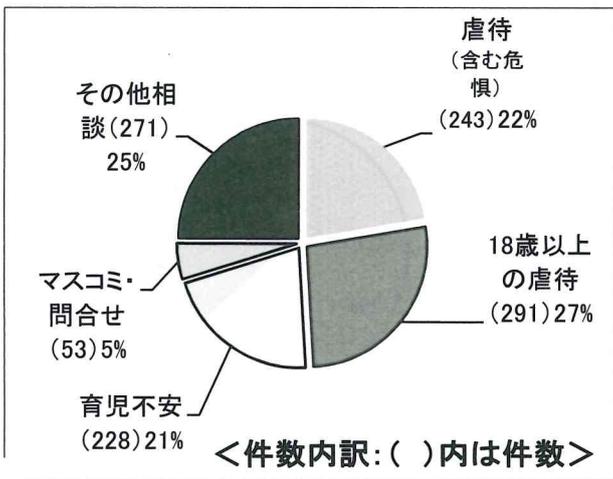
*各年度末(3月31日)の数を基にしている。
 *継続会員は、各年度末までに会費納入済みの会員とする。
 *団体会員は2001年度より、企業賛助会員は2003年度より導入

会員種別会員数の変化



子どもの虐待防止ホットライン・あいち
2012年度(2012年4月～2013年3月)電話相談結果報告

① 総受信件数 1086件



<総件数の内訳>

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
女性	10	71	169	152	131	29	0	455	1017
男性	1	3	12	7	1	2	0	43	69

2) 利用回数

初回	継続
647	439

3) 相談時間

～9	～19	～29	～39	～49	～59	60分以上	平均時間
136	153	180	164	149	108	196	36分18秒

4) 相談者住所

市内	県内	県外	不明
179	140	149	618

5) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
421	71	594

② 内容別件数

虐待(含む危惧)	243
18歳以上の虐待	291
育児不安	228
マスコミ・問合せ	53
その他相談	271

* 虐待の型 *

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
207	237	37	50	3

CAPNAスタッフ一言

火曜日 G 柴田美智子

初めて相談員になったころ、「リーン！」と、鳴る電話の音に胸をドキドキさせながら、利用者さんの言葉に耳を傾けていた私。

その頃、不器用な私は家とCAPNAの相談室を往復するのが精いっぱい、他のことは考えられないありさまだった。

それから数年経った今の私はどうなのかといえば、胸がドキドキするのは変わらないが「相談の答えは利用者の中にある」と、習ったことを心の中で反すうしながら、以前よりは落ち着いて電話に向かうことが出来るようになったと思っている。

度々、利用者さんから教えられるような知識不足の私でしたが、スタッフのために開催される研修、関連の行事に何度か参加することによって、必要な知識が少しずつ自分の物になっていくのが最近感じられるようになった。

私がCAPNAへ行こうと思うのは何故なのかを考えてみると、電話相談という人間理解が深められる場がそこにあることが、私にとって魅力だからなのかもしれない。そして、そこに分かりあえる仲間がいるのが嬉しい。

CAPNA ホットライン受信件数 3ヶ月比較

	4-6月		7-9月		10-12月		1-3月		合計		増減
	2011	2012	2011	2012	2011	2012	2012	2013	前期	当期	当期/前期
虐待相談	130	148	109	140	143	134	151	133	533	555	104%
相談件数	313	309	304	291	291	300	257	255	1165	1155	99%

受信件数 3ヶ月比較

